

真岡発☆ 市民による 「子どもの絵」の審査会

授業を行う教員

なとりはつほ
名取初穂

國學院大學栃木短期大学 准教授
/ 日本美術院院友

教育領域

美術教育×地域連携

対象学年

年少 - 中学3年

実施年・時期

2016年（平成28） - 現在に至る

授業を行う場所

久保講堂（栃木県真岡市）

授業概要

國學院大學栃木短期大学美術研究室は、近年、一般社団法人真岡青年会議所（以下真岡JC）の青少年育成事業に携わっており、地域で開催される真岡JC主催のワークショップへの参画や児童美術展の支援を行っている。

本実践は、真岡の美術展*における新たな試みとして、真岡JC第48代理事長伊澤と筆者が2016（平成28）年9月13日、久保講堂にて、“子どもによる、子どもの絵の審査会”を立ち上げた挑戦的な取り組みである。

この「子ども審査会」は、その後さらなる進化を遂げながら継続的に行われ、今秋で4年目を迎えることとなった。

* 芳賀地区（真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町）において真岡JCを中心に1980（昭和55）年より継承される市民運動から誕生した児童美術展

ねらい・目標

まち全体で、「子どもの見方や感じ方」に耳を傾けるということを大切にしたい。

審査員を務めた子どもには、自身のまちの文化創造の一役を担っているという主体的意識の萌芽が見込まれる。また、2017（平成29）年度より、公開審査会当日、会場に集った地元市民による「子ども審査べんてる賞」*の選考枠を設置しており、大人も子どもも含めた「市民」の文化創造への加担を意図したものである。

*「子ども審査べんてる賞」| 株式会社べんてる協賛への謝意を込めて新設した賞

活動

“子どもの声を、大切にしたい。”との想いから、歴史ある美術展の一角に、子どもたちが審査員を務める部門を開拓した。また、かつて同じ場所で、日本で初めての「児童画公開審査会」*が行われた史実に敬意を表し、「子ども審査会」を「公開審査」としている。

審査当日、会場となる久保講堂には、放課後、次々と子どもやその保護者、一般市民の参観者がやってくる。審査員の子どもたちは、講堂の床一面に並べられた約1000点に及ぶ作品（平面・立体）の中から、心に留まった作品を選び取っていく。そうして最後に選出した作品について会衆の前で紹介し、選考理由を自分の言葉で語るののである。

美術展に寄せられた全学年の出品作から選出することは数量的に困難であるため、審査対象を年長（または年中）の作品に絞り実施している。「子ども審査会」後には専門家による従来通りの審査も行われるが、子どもたちが選んだ作品も同様に表彰式にて「子ども審査特別賞」として表彰される。

今秋の審査会では、会衆の中から「市民審査員」を募ったところ、初めて大人も子どもも手を挙げた。最年少は、4歳であった。

* 久保貞次郎は1938（昭和13）年に真岡小学校校庭に講堂（現：久保講堂）を竣工し、そこで第1回目の児童画公開審査会を開催した。

成果と課題

真岡は昭和初頭より久保貞次郎（Sadajiro Kubo, 1909-1996）の美術教育運動が展開された土地であり、この地で開催される美術展の審査基準には「創造美育」の視点が含まれる点特徴的である。「創造美育」とは1952（昭和27）年に久保を中心に提唱された民間美術教育運動理念を指し、子どもの個性の伸長を教育目標としている。かつて、子どもの絵には独自の意味や価値があるとする「創造美育」の視点が真岡を起点として日本全国に波及し、子どもの絵の本来の価値が承認されたことは周知のとおりである。

しかしながら、現在の真岡JCを中心に展開されるムーブメントを俯瞰するとき、「創造美育」の理念を継承しながらも、決して過去の踏襲に留まらず、若きエネルギーは常に新たな展開を模索し、実現させ続けている。この、真岡の日々新たな展開を筆者は「現代創美」と称し、今後も共に挑戦し続けながら参画していく所存である。

